

日中漁船保険制度に関する比較研究

著者	陳 放
学位名	博士(海洋科学)
学位授与機関	東京海洋大学
学位授与年度	2015
学位授与番号	12614博甲第375号
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00001204/

〔課程博士〕（博士論文審査及び最終試験の結果要旨）

学生氏名：陳放

博士論文題目：日中漁船保険制度に関する比較研究

博士論文審査：

学生から提出された博士論文について、公開発表会が8月18日に行われ、審査委員と学生の間で質疑応答が繰り返され、日本漁船保険制度の付保率水準のもつ意義や比較分析における評価軸の整理などに関して質疑応答があり、それらに対して適切な説明を行い、博士論文としての質を十分に確保しているとの結論に至った。

本研究は、日中両国の漁船保険制度の枠組を明らかにし、その特徴を抽出したうえで、事例分析を通じてその制度運営と機能の実態を解明し、比較研究を通じて両国の漁船保険制度の特徴、課題を明らかにすることを目的とした。

まずは、日本の漁船保険制度については、その成立過程を把握し、政策保険としての当該制度の特徴を抽出するとともに、日本漁船保険の運用実態を、加入隻数、保険料、支払保険料の推移から解明し、漁船保険の加入率、付保率を分析指標として分析した。その結果、日本漁船保険は、加入率と付保率水準が維持されて、漁業経営の安定化に大きな役割を果たしてきたことがわかった。そして、東日本大震災の復興における取り組みを事例として実証分析し、日本の漁船保険制度が政策保険として、政府、漁船保険中央会および漁船保険組合を通じて素早く機能を果たせたメカニズムが解明された。次に、中国漁船保険制度について、その成立背景や展開過程を明らかにし、当該制度が商業保険時期、相互保険時期、総合対策時期、そして今日の政策保険萌芽期といった特徴的な時期を経過していることがわかった。その保険業務を分析した結果、政府は保険実施主体とはならず、商業保険ならびに相互保険組織によって機能が担われていることがわかった。最後に、日中両国の漁船保険制度を比較分析した結果、保険事業の展開過程、保険種類の多さ、保険業務の実施主体、その性格などにおいて大きな違いがあったことが明らかとなった。以上の分析を踏まえて、両制度の抱える課題として、日本では政策保険としての保険業務と保険理論との整合性の問題、漁業者間の公平性問題、独立経営の保険組合の経営問題などの諸課題を抱え、中国では災害への対応力の低さ、利用者間の不公平性問題、保険制度の普及問題などの諸課題を抱え込んでいる。そうした課題に対応するためには、保険組合の大規模化、組合経営の一元化、さらには政策保険の強化などを含めた漁船保険の新たな経営モデルの確立について提言している。

これらの成果は、はじめて日中両国の漁船保険制度を体系的に取り上げたことに新規性があり、とくに震災復興における日本の漁船保険制度の機能実態を解明した点が高く評価でき、今後保険組合の経営分析を深める必要があるなどの課題があるものの、その成果が今後水産経済学の発展に寄与できる研究といえる。

以上の内容から、学生から提出された博士論文は、国内外の研究の水準に照らし、本研究分野における学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値を有しており、博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

最終試験の結果要旨：

最終試験は8月18日に行われた。審査委員一同出席の下、学生に対して、博士論文の内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識については公開発表会当日の質疑応答時や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。学術論文は1編が第一著者として公表済み（陳放・婁小波・川辺みどり「漁船保険の機能と震災復興への対応」、沿岸域学会誌、第27巻第3号、2014）であることを確認した。語学力についても、本人は英語通訳として通訳業務にも関わってきており、英語の学力については問題ないと判断した。また、講演発表は国内学会2回あり、日本沿岸域学会では優秀発表者賞を受賞していることを確認した。さらに、合同セミナーへの出席回数が60時間を超えていることを確認した。

以上から、学生について博士論文審査、最終試験とも合格と判定した。